

誰も孤立せず何度でもやり直せる社会を目指して

——ホームレス問題を寮付き求人紹介で解決する「いえとしごと」の実践

Reilight社長

市川加奈

いちかわ かな



私たちは、日本のホームレス問題をはじめとする日本の貧困問題を解決するため、2019年にReilightを設立した。

現在、家のない方向けの住まい付きの仕事紹介「いえとしごと」を中心に、自分で家を借りられない方向けの賃貸「コシツ」の2つの事業を展開している。

複雑化しているホームレス問題

「ホームレス」という状況も近年では多様化しており、路上生活者以外にも、友人宅や、ネットカフェ、車の中等で生活している、路上という分かりやすい屋外で生活していない「見えないホームレス」という状態の方がいる。彼らは見えづらい存在のため行政やNPOの支援が届きづらい。また、Reilight

への相談者は約60%が20〜30代と若年層も多く、支援ではなく就労を希望している方も多いため、Reilightでは特にその方々に向けて仕事の紹介の事業をしている。

どんな状況の方でも応募できるサービス開発

人手不足の企業は多いのに、なぜ彼らはその状況から立て直せないのか。「携帯番号や身分証がないから」というのが1つの答えである。

派遣や日雇いなどの不安定就労による収入減の影響で、家賃や携帯などの固定費の支払いが困難になる。すると、求人応募時に現住所や携帯番号がないので、そもそも応募ができないのだ。昔は家に固定電話があったので

携帯がなくても応募ができたが最近は少なく、かつ単身世帯だと携帯電話が社会とのライフラインになるのだ。携帯料金が払えないから仕事をしたいのに、携帯が止まっているから応募ができない矛盾が生じてしまう。

Reilightではそこに注目し、現住所や携帯がなくても仕事を探せる「いえとしごと」を開始した。通話ができないが携帯端末は所有している方が多いのでWiFiがあれば、ウェブ上でのビデオ通話ができる。また、不安定な状況の彼らを受け入れる企業には事前に1社ずつ、どの状況の方までだったら受け入れ可能か、打ち合わせを確認している。

そのため、スムーズかつ丁寧を受け入れを実施することができている。

事業を始めて約3年、600人を仕事や住まいにつなげ、それ以外にも働くことが困難な方を行政やNPOの支援につなげてきた。

社会的な信用を重要視する日本社会

昨今の新型コロナウィルスや物価高の影響で、職や住まいを失った方にスポットライトが当たる機会が増え、ありがたいことに多くの企業から人材を受け入れたいと連絡をいただくようになった。

携帯番号や身分証のない方を受け入れるのは確かに手間がかかるが、人手不足の企業からは、そもそも求人を出しても応募が来ない中、入社時のフォローをすれば競合他社と差

別化ができ、人材が集まるのであれば登録したいと利用していただいている。

携帯や身分証は選考時になくても、入社後、住宅に住民票を置くことで身分証は揃えられ給与を前借りして滞納した携帯代金を支払って復活することは可能である。ただ、その手間と、携帯や身分証がないということに対しての「社会的な信用のなさ」が、彼らの再起を阻害している。

現在の日本では社会的な信用を一度失うと、自力で立て直すことは困難である。

例えば、家賃や携帯代金を滞納してしまうと、再度契約する際の審査が通らなくなる。滞納分を稼ぐために仕事を探しても、携帯番号がないので応募ができない。そうすると、仕事をしたければ詐欺等の犯罪に手を染めてしまうかもしれない。犯罪歴などがあれば立て直しが困難になり、負のスパイラルに入ってしまう。

社会的な信用のない人にチャンスを作るというのは容易ではない。実際に私たちが面談をする予定だった方も失踪してしまうこともあり、対応が難しいから、その層を選考からそいだ企業も多いと推測される。だが、採用してもらって実際に働いていただくと、自社での採用より良い人材が来たと驚かれることもあるので、履歴書等の過去の情報で判断するのはかなり難しい。そのためRe-lightでは就職後1カ月後に紹介料を企業からいただくようにして、まずは選考ではわからない人柄や働く姿勢を、実務を通じて見てもらう

日本社会をリデザインして誰もが生きやすい社会へ

ようにしている。

私たちが生きる社会は、生産性や効率を重視し過ぎた結果、少しでも扱いづらい、信用がない人は自然と排除するように変化してきた。しかし、その結果、企業側に人手不足が起ころ一方、自ら命を絶つ方やひきこもりの方等、今の社会では生きづらい方を生み出しているのではないか。Re-lightでは仕事や住まいの紹介を通じて不均衡をなくし、社会をリデザインしていきたいと考えている。相談に来る方と話している中で、頼れる人がおらずこわばった表情の方が、就職後生活に安心した結果、柔らかい雰囲気に変化したとき、人は環境でこんなに変化するのかと驚かされる。

ホームレス問題をはじめ、日本の貧困をテーマに事業をしていると、よく自己責任論が登場する。確かに金銭感覚や人間関係等、課題を抱える方もいるのだが、その人が立て直したいと願ったときに、選択肢がないことは社会側の問題だと私は思う。自己責任かどうか極論はどうでもいい。それより、人を過去で判断するのではなく、その人の将来を、未来を応援できる社会を、皆さんと一緒につくりたい。



家のない方向け寮付き求人紹介「いえとしごと」